

日本災害医学会 学会主導研究

研究実施状況報告書

- ・研究代表者氏名：高杉友
- ・所属機関・職名・職種：浜松医科大学医学部健康社会医学講座・助教・大学教員
- ・研究課題名：災害オープンデータの利活用と整備のあり方に関する研究
- ・採択年度：令和5年度
- ・研究期間：（ 3 ）年計画の（ 1 ）年目
- ・来年度研究助成申請を： 行う
- ・来年度研究助成申請を行う場合には、以下に支出予定を記載してください。
(今年度未使用分があった場合には、表には含まず、表の下の項目にて記載してください。)

	令和5年	令和6年
施設備品費（※）	0円	0円
消耗品費	3,786円	50,000円
旅費	137,700円	200,000円
人件費	0円	0円
その他	8,514円	250,000円
合計	150,000円	500,000円

※10万円以上かつ耐用年数1年以上のもの

・研究実施状況の概要(800字以内で記載してください)

本研究の目的は、①海外の災害オープンデータを利活用し、ある国に着目し、その国内の州単位で災害被害が大きい地域を特定すること、②被災有無(地域)および被災前後(時期)において、健康や生活のアウトカムの変化を検証することとした。

対象国をタンザニアとし、①国際災害データベースEM-DAT、②人口保健調査(Demographic and Health Survey:DHS)の2つのデータベースを用いた。EM-DATでは洪水を対象とし、被災情報(州、年月日、死亡者数等)を調査し、影響を受けた人数が2万人以上の洪水事例を抽出した。最終的に、タンザニアDHS実施の前年に発生した洪水のうち、データが比較的新しく、被災地域が広範囲ではない事例を抽出した。DHSでは、2010年(洪水発生前)および2015-16年(洪水発生後)の2時点を対象とした繰り返し横断研究を行った。分析対象者は15-49歳の女性で、10,139名(2010年)、13,266名(2015-16年)であった。説明変数は被災有無(地域)、被災前後(時期)、交互作用項(地域×時期)で、目的変数は予防接種有無、虐待有無、就労有無とした。ロジスティック回帰分析を行い、オッズ比、95%信頼区間、p値を算出した。

2014年にモロゴロ州で発生した洪水では2万人以上に影響があった。被災有無(地域)および被災前後(時期)が関係したアウトカムは、夫・パートナーによ

る感情的虐待有無および女性の現在の就労有無だった。被災した州では被災前後で虐待が10.9%低下し、家族・親族が助け合って生活を立て直す必要があったと考えられた。被災した州では被災前後で女性の現在の就労が18.6%低下した。災害時の失業者ではメンタルヘルスの問題が長期化するという報告があり、経済的な支援の重要性が示唆された。

- ・現在までの進捗状況(下記ドロップダウンリストより選択してください)

進捗状況 (予定通り)

- ・現在までの進捗状況で「やや遅れている」「遅れている」を選択した場合にはその理由を200字以内で記載してください

理由：

- ・今後の研究の推進方策(400字以内で記載してください)

1) 国内の災害オープンデータを利活用した疫学研究（令和6年度）

既存の国内の被災地におけるオープンデータ（東北メディカル・メガバンク統合データベース、福島県「県民健康調査」等）を調査・整理する。それらを利活用し、被害状況（身体に受けた被害等）に関わらずヘルスアウトカム（主観的健康感、生活習慣病、うつ等）が良好に保たれる要因、被災地域と非被災地域を

比較した地域単位の特徴などについて検討を行う。

2) 災害オープンデータ整備方法の提言（令和7年度）

実際に利活用した経験から、既存の災害オープンデータの改善点・課題等を整理する。ニュージーランドのカンタベリー地震発生後のオープンデータを手始めとして、国外及び国内の災害オープンデータについて、情報収集をして整理する。整理した情報を基に、日本において災害復興期に政策決定や被災者のモニタリングに利活用できる災害オープンデータの整備方法を提言する。

・研究発表(今まで全ての本研究に関する業績を論文と学会発表に分けて記載してください)

(学会発表)

- 1) 高杉友・大塚理加・辻大士・宮國康弘・栗山進一・尾島俊之，災害オープンデータの利活用と整備のあり方に関する研究，第29回日本災害医学会総会・学術集会，2024年2月24日.

・日本災害医学会学術集会での研究発表の有無

発表状況 **あり**

「あり」を選択された場合は発表年や演題名等を記載してください。

- 1) 高杉友・大塚理加・辻大士・宮國康弘・栗山進一・尾島俊之，災害オープンデータの利活用と整備のあり方に関する研究，第29回日本災害医学会総会・学術集会，2024年2月24日.

- 2) 尾島俊之・高橋礼子・高岡誠子・原岡智子・高杉友・服部希世子・池田和功・奥田博子・冨尾淳，災害発生後の急性期からの NPO 等との連携，第 29 回日本災害医学会総会・学術集会，2024 年 2 月 23 日.
- 3) 尾島俊之・原岡智子・横山芳子・五十嵐佳寿美・高杉友・李泰榮・池田真幸・服部希世子・池田和功・奥田博子・冨尾淳・久保達彦，保健医療福祉調整本部に関する全国調査，第 29 回日本災害医学会総会・学術集会，2024 年 2 月 22 日.
- 4) 尾島俊之・池田真幸・原岡智子・服部希世子・池田和功・高杉友・李泰榮・冨尾淳，保健所の地域保健医療福祉調整本部等の令和元年の風水害における活動，第 28 回日本災害医学会総会・学術集会，2023 年 3 月 10 日.
- 5) 尾島俊之・高杉友・原岡智子・池田真幸・池田和功・冨尾淳，保健医療調整本部等におけるマネジメント，第 27 回日本災害医学会総会・学術集会，2022 年 3 月 3~5 日.

・「未定」を選択された場合、翌年度の学術集会で発表希望はありますか？

※ご意向に沿えない場合もございます。

発表状況 (この中から選択)